

令和4年度第2回郷土文化館協議会 概要

1 日 時 令和5年2月10日（金） 午後2時～3時50分

2 会 場 松永記念館本館 広間

3 出席者

（1）郷土文化館協議会委員

一寸木委員長、鳥居副委員長、篠原委員、高橋委員、田嶋委員、山下委員、石井委員、加藤委員

（2）市事務局側

鈴木文化部長、小澤副文化部長、田村生涯学習課長、鈴木係長、田中主任、小澤主任、吉野主事

（3）ナカシャクリエイテブ

（報告事項の「デジタルミュージアム創設事業について」のみ出席）

浅井氏、中村氏

4 会議の概要

（1）議題1 協議事項「令和4年度 郷土文化館補正予算について」（資料1）

施設の光熱費、具体的には電気料についての補正予算であることを説明し、特に意見等は無く承認された。

（2）議題2・3 協議事項「令和5年度郷土文化館事業」及び「令和5年度郷土文化館予算」について（資料2～6）

このことについて、会議資料に沿って事務局から概要を説明し、次のような討議が行われ、承認された。

① 「令和5年度 展示事業実施計画」（資料2-1）について

企画展示の内容についての質問があり、郷土文化館が所有している資料を中心に、震災の被害の写真を展示する計画であること、また、講演会については、片浦地区を取り上げを考えており、根府川公民館で午前中講義、午後に史跡散策を行う予定であることを説明した。

委員から、神奈川県歴史博物館も震災の特別展を企画しており、講師の調整は早めに行った方が良いとのアドバイスがあった。

また、講師の候補として、生命の星・地球博物館、温泉地学研究所、市内の研究者等の情報提供があった。

② 「令和5年度 資料調査・収集・管理等業務 実施概要」（資料4-2）について

研究報告などの刊行物についてのデジタル化について質問があり、現在、テキスト化が概ね完了しており、今後、公開にあたり執筆者の承認手続きを進めていくこと、初めに絶版となっており、図書館でしか見ることができなくなっているものから順次公

開していく計画であることを説明した。

また、郷土文化館の館報について質問があったが、各種統計を集約・統一して公開できるよう館報の作成を企画していると説明した。これに対し委員から、博物館の活動は多くの方々に知っていただきたいので発行に向けて進めてほしい、神奈川県立博物館では研究報告をデジタル化しているが自然系の内容に比べ、人文系の内容のものは許諾関係で時間がかかるので、計画的に進めるべきとの意見があった。

さらに、企画展の内容について質問があり、関東大震災に係る展示を考えており、被害の写真、実物の資料等を展示すること、片浦地区に着目しており、午前中講座、午後史跡散策を実施する予定であることを説明した。

③ 「令和5年度博物館構想事業における取組計画」(資料5)について

収蔵庫に係る経緯を説明してほしいとの質問があり、一昨年の8月に厚木市の郷土博物館の収蔵庫を視察し、リースバック方式での建築について学んだこと、その後、庁内の関係所管が集まり、収容能力がどれだけ不足しているか、スパンを博物館建設までとするか、その後も活用していくのか等について協議し10年、20年は使う、その期間収蔵物が溢れない規格とし、床面積を試算したこと、そして、昨年2月に用地を絞り、史跡関係、建築基準法、災害調査、土地の所有者等様々な調査を実施行ってきたことを説明した。また、現在はデジタルミュージアム関係の業務が重なり、保留している状況であることを伝えた。

これに対し、収蔵庫の建設は博物館の建設とリンクしたものでなければならず、示す施設の傍に収蔵庫があるのが理想であるとのアドバイス、また、博物館建設の意識を高めるための講演会をさらに充実すべきとの意見があった。

さらに、博物館構想の周知についての質問があり、講演会においてデジタルミュージアムのPRを考えていること、出前講座、子供向けの講座、学校教育の連携を図るため、現在、教育研究所と相談を進めており、副読本とデジタルミュージアムとのリンクを作ること等を考えていることを説明した。これに関し、デジタル化は大切であるが、紙ベースの良さもあるので、考慮してほしいとの意見、小中学生に興味を持ってもらうために、生徒たちに分かりやすい取り組みをしてほしいとの意見があった。

④ 「令和5年度郷土文化館予算(案)」(資料6)について

デジタルミュージアムの予算が前年度と比較し大幅に減額となっている理由について質問があり、令和4年度は導入の経費であったが令和5年度はサーバ使用料、システム改良費等の維持管理のための経費となるため、前年度と比較し予算が減額されていることを説明した。

(3) 議題4 報告事項「令和4年度(11月～3月) 郷土文化館事業について」 (資料7～13)

このことについて、まず会議資料に沿って事務局から概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

① 「令和4年度 学校利用状況について」(資料7-3)

郷土文化館の学校利用が少ない理由について質問があり、校外学習等の機会が新型コロナ等の影響により減り、特に市外からの学校の見学が無かったことなどが理由であることを説明した。これに対し、待つだけではなく出前講座も積極的に展開してほしい、地域の先人の暮らしを知るために地域の博物館の持つ意義は大きく、また写真を見ても本当の良さはわからず、本物を見ていくうちに秦の良さが分かるので、デジタルとリアルは両輪でなければならないとの意見があり、事務局から今後、子供に対する意識をさらに持って取り組み、またデジタルの手法をとる場合でもリアルに近づける工夫も考え、QRコードを使って子供がリアルとオンラインが連携できるような形も行っていきたいと回答した。

また、学校現場においても郷土学習については大きな課題となっており、子供向けのプログラム等情報の提供を充実させてほしいとの意見があり、例年実施し好評な「磯の生物観察会」等、子供向けの事業の充実を図っていくと回答した。

② 「令和3年度 資料調査・収集・管理等業務 実施概要」(資料4-1)について

委員より、相模原市博物館のボランティアの活用方法は、展示部門、解説部門に分けており、魅力のある展示を展開にしており、参考にしてボランティアの組織の醸成、育成に努めるべきべきとの意見があり、さらに、新しい博物館を作ってからボランティアを育成するのではなく、その準備段階から行わなければならないとの意見があった。これに対し博物館関係のボランティアを育成するために、生涯学習課が開催している市民学校の活用を考えており、従来の古写真、石造物調査のボランティアの活用と併せて実施していきたいと回答した。

また、デジタルミュージアムを進めていく中で資料目録を確実に作成する必要がある、寄贈資料があった場合、データがそのまま正確に入力できるよう、数量、「通」「葉」などの単位も正しい使い方をすべき

③ 「デジタルミュージアム創設事業」(資料13-1)について

このことについて、会議資料に沿って事務局から概要を報告した後、当事業の委託請負業者であるナカシャクリエイテブ社員が詳細の説明を行い、次の質疑・意見等があり事務局が回答した。

- (ア) 通信速度が遅くなる懸念がある高精細のデータの大きさについて質問があったが、仕様の中で、スマホ、PCなどのメディアでストレスなく動くようにすることを指定しており、3D、VRなどはナカシャクリエイテブ独自の技術ではなく、世界的に汎用されている他社のシステムを採用し色々なメディアでスムーズに見えるようにデータをスリム化して処理するということができると説明した。

また、高精細のデータについては、利用したいと申し出があった場合許可の上ダウンロードしていただき、データはデータベースに入れず郷土文化館がHDに格納する方式であることを説明した。

(イ) 小さい画像では拡大した時に荒く見えてしまうのではないかと質問があり、実際に使用するに当たっては、A3サイズに伸ばしても鮮明で問題が無いレベルであると説明した。

(ウ) データのコピーについて印刷が安易にできないようにすべきとの意見があったが、他の委員から神奈川県立歴史博物館ではコピーでき、国立公文書館などもかなり高精細のものがプリントできる、資料のコピーに制限を掛ける必要がないことが今の流れであるとの意見があった。

また、事務局から、公開するという部分と市の収入源とするという考え方を持っており、すべてを一気に公開というように進めきれないが、それを使って利益を上げようとする者からはお金を徴収したい旨を説明した。

さらに委員から、デジタルという形で公開する場合、かつてはどう制限を掛けるかが課題であったが、今は法律的な許認可をいかに整備するかが課題であるとの意見があり、郷土文化館としてもそのような手法を考えており現在、紙ベースで申請していただき、許認可しているが、文書ではなくメール、フォームで行うなど工夫することを検討していくことを説明した。

(4) その他について

特に無し。

以上をもって協議を終了した。

協議後、松永記念館で実施されているデジタルミュージアム創設事業の撮影現場を視察した。